

令和6年度（第5期）事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人こうのさと

代表理事 片岡徹也

1. 事業の概要
2. 事業の成果
3. 事業の実施に関する事項
4. 2024 年度 活動予算書

事業の概要

NPO法人こうのさと設立からの流れ

2023年4月にオルタナティブスクール「竹林のスコレー」を開校し、活動拠点を倉敷市玉島陶に移して2年が経過しつつある。2021年1月に当法人は設立された。当初は、農薬化学肥料不使用で栽培されたお野菜の妊産婦へのプレゼントを主な事業として行っていた。2022年、コロナ禍において子どもたちの不登校の増加、生活の主だった場である学校での厳しい感染対策の状況があり、自然の中で過ごせる学びの場をつくるため竹林のスコレーを設立することになった。

事業の概要

現在、NPO法人こうのさとの主事業となっている「竹林のスコレー」では、およそ30,000m²の敷地に、田畑竹林を有し、田畑でのお米や野菜の栽培、鶏の飼育など自然体験を通じて学びのきっかけや子どもたちそれぞれの興味関心を探求する場所となっている。

開校当初の利用児童は3名であったが、2023年度末には15名、2024年2月末には20名（年間利用9名、都度利用11名）となっている。継続的に増えていることから、社会的な関心やニーズの高さが窺えるが、まだ収益分岐点まで至っておらず、周知を進め利用者を募集していくところである。

本年度は、竹林のスコレー西側に位置する耕作放棄地およそ3,500m²を開拓し、スコレーパークを建設することができた。令和5年3月末から開始し、令和6年4月に終了したクラウドファンディングで、332名の方から533万円のご支援をいただき、開拓する資金を調達した。

また、福武文化教育振興財団の文化活動助成にて、竹の舞台の建設を行い大道芸や野外劇を観覧し、子どもたちを対象にワークショップを実施した。

そして、備中県民局のみらいづくり支援事業の助成を受けて、竹灯籠祭り事業の一環として、竹林の間伐、雑木の伐採、整地を行っていった。11月には第2回となる竹灯籠まつりを開催、前回は2日間で1,000名を超える来場者を得たが、今回は、単日開催で1,251名の来場者を得ることができた。

スコレーパークは現在、子どもたちが遊べる広場、竹のジャングルジム、みんなの前で一芸を披露できる竹の舞台、人工芝のバスケットコートができた。スコレーを利用する子どもたちも使用し活動の幅が広がっている。今後は、果樹を植え、花壇や池・ビオトープをつくり、虫が生息できる環境づくりを目指していく。

竹林のスコレー2年目となり、活動が徐々に多様化している。未就学児童の保育や親子サロンのニーズが生まれ、スコレーの保育部としてたまたま園・親子サロンたまろんを試験的に開設している段階である。そして、利用児童の成長から中学部設立の必要が出てきている。活動場所を拡張するため、母家

の南側にある離れの建物を橋本財団の福祉助成から得た資金で改修することができた。現在、母屋を小学1年生から中学1年生までの活動場所として使用、離れを定期的に保育部として使用している。

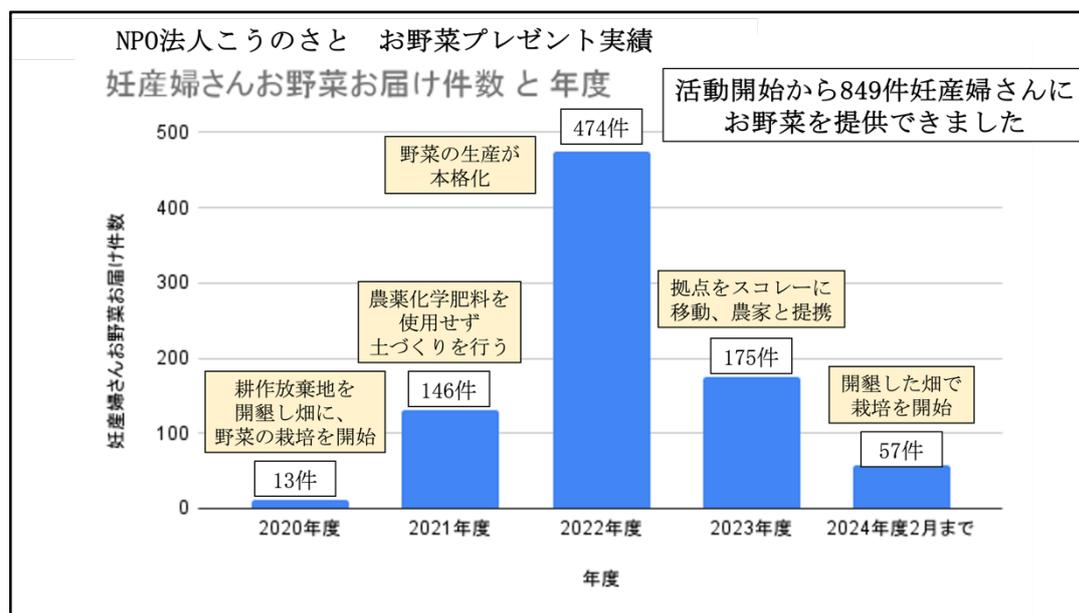
竹林のスコレー開校から、スコレーの田んぼでの稲作、畑での野菜の栽培を少しずつ行っている。およそ1反の田んぼでは、昨年に農薬化学肥料不使用で米の栽培を行い、昨年と同様に6俵（360kg）ほど収穫することができた。お米は、スコレーの給食として法人内で消費をしている。

畑での野菜の栽培は、夏野菜から畑面積の半分ほどを使用して野菜の栽培を開始、少しずつではあるが収穫でき妊産婦へのお野菜をプレゼントすることができた。貸し農園も募集しており、令和7年3月に2組が利用されている。畑の南側が山になっており竹やぶが広がっているため、日当たりが悪く冬の作物があまり育たなかった。春の作付けに向けて開拓を進めているところである。

事業の成果

2-1. 妊娠、子育て中の孤立を防ぎ、健康を増進するために行う妊産婦・乳幼児への農薬化学肥料不使用作物の提供事業

令和5年度からオルタナティブスクール「竹林のスコレー」の運営が始まり、活動拠点を倉敷市西坂から玉島陶に移し2年目。提携している農家から野菜を仕入れ妊産婦さんへお野菜プレゼントを継続していたが、提携農家の状況も変わり、令和6年夏頃より新たに開墾した畑での作物の栽培を開始、徐々に野菜の生産体制を整えている。



令和6年度は、2月末時点で延べ57人の妊産婦へ提供、活動開始から通算で延べ849人の妊産婦に農薬化学肥料不使用の野菜を提供している。

今年度前半は、提携している農家に野菜の生産とボランティアさんへの受け渡しを任せていたため、妊産婦や宅配ボランティアと運営メンバーで、顔を合わせる機会がなく、ラインでのやり取り、またボランティアから妊産婦への野菜の受け渡しも置き配が多くなり、両者の満足度が低くなっている様子が見られた。

提携農家の状況も変わり、10月までで農家から購入して野菜を提供する形を終了することとなり、スコレー畑での野菜の生産に注力した。それに伴い、宅配ボランティアさん、妊産婦さんへのお野菜

提供場所をスコレーとし、顔の見える関係を新たに築くこととした。

スコレーパークの整地、竹灯籠まつりを終えたことで、スコレー畑での畑活も再開。徐々に参加者が増えつつある状況である。



畑の南側に山があり斜面に竹やぶが広がっていることから畑の日照が悪く、冬野菜の生育が進まなかった。現在、春の作付けに向けて竹やぶの間伐を進めている。

今後、コンセプトがより伝わるようにブラッシュアップして協力者、支援者の募集を強化していく。本事業への継続的な寄付を募るためにも周知を広げていく。広報・マーケティングの雇用も進めていく。

2-2. 環境負荷の少ない持続可能な農業の推進および安心安全な食品の流通支援事業

(i) 米づくりと貸し農園

スコレー設立準備の頃より、スコレー付近の耕作放棄地となっていた田んぼを復元。令和5年度に一反弱の面積で米作りを行えた。オルタナティブスクールに通う子どもたちやその保護者、活動に共感する人たちと一緒に田植えと稲刈り、はざかけを行うことができた。今年度も、昨年と同様に、農業化学肥料を使用せず、およそ6俵（360kg）のお米を収穫することができた。



また、真備町の米農家の方から設備と機械を合わせて、約8反の田んぼを借りる契約を結ぶことができた。令和7年は、真備でも米づくりを実施し、竹林のスコレーでの自給を超えるお米は、販売し収益に充てていく予定である。

竹林のスコレーは、平日常時開校し人も集まるので、ボランティアの受け入れもしやすく、農作業と耕作放棄地を開墾する環境整備のボランティアを広く集めていく。また、自然な農法に興味のある方への貸し農園の運営を行う。令和7年3月に2組の利用が予定されている。

貸し農園で収穫があり余ったものは、妊産婦へのお野菜提供にも用いることができ、CSRを意識している企業への賃借も積極的に進めていきたい。

(ii) さとっこマークによる流通支援

予定していたが、取り組めなかった事業にさとっこマークによる流通支援がある。安心安全な食品の流通支援として、子どもに安心して食べさせられるNPO独自の原材料と製造方法の基準を設けてマークをつけ、流通の支援を行う。基準は、遺伝子組み換え原材料、ゲノム編集原材料不使用、食品添加物と〇〇エキス、タンパク加水分解物、酵母エキスを用いていないなどを検討している。

今後は、当法人内でセレクトショップのような形で、オンラインショップを開設、スコレー内で物販を開始して認知を拡げながら「さとっこマーク」の運用を考えていく。

ロシア・ウクライナ、イスラエルとパレスチナの中東情勢など緊迫した国際情勢は続いており、化学肥料だけでなく、畜産飼料や資材も高騰、円安も重なり、お米や野菜、卵や生乳の価格も上がっている。そのような状況で、輸入資材を使用せず生産量を保つ持続可能な農業の重要性は高く、倉敷市を起点として地域での食料自給率を高める活動が必須である。引き続き、他団体や企業、行政と連携した取り組みも検討していきたい。

2-3. 子育て中の父母が朗らかに交流でき子どもが自然の中で遊び学べる場づくり事業

竹林のスコレー（オルタナティブスクール）

・生徒利用と収益状況

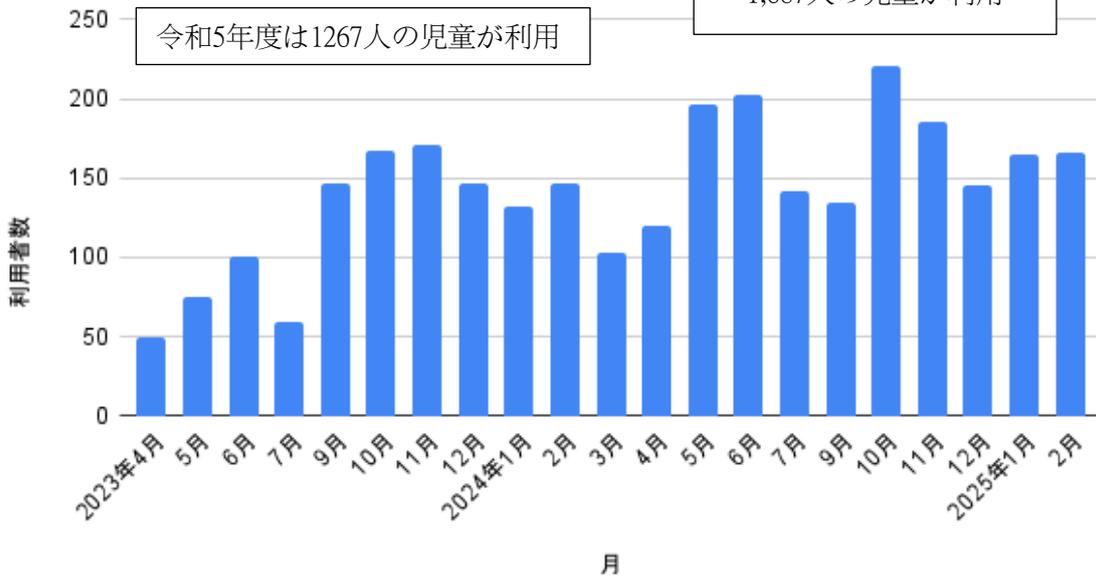
令和5年4月に開校したオルタナティブスクール「竹林のスコレー」は、30,000㎡の敷地に田畑山林を有しており竹林に囲まれた所である。そのため、農作業だけではなく竹を使った工作やアウトドア体験も容易に行える環境であり、子どもたちの体験に基づく多様な学び場として有効に活用できる。定員15名-20名/日の利用者が集うように周知を広げていく。

令和7年2月末 新入学の子がいたため集合写真



また、子どもへの教育をきっかけに様々な経験を持つ大人が集い、子どもたちへのクラスを提供していく。子どもだけではなく大人も学び、知見を広め深めていく交流の場としても機能させていく。そして、スコレーに通う子どもたちが、多様な大人と関係性を育み、自らのロールモデルを見つけて将来の進路を決める助けとなるような機会を設けていく。

竹林のスコレー利用者数（月次）



開校当初の利用児童は3名であったが、2023年度末には15名、2024年2月末には20名（年間利用9名、都度利用11名）となっている。13名/日ほどの利用があれば、損益分岐点を超える計算となる。

昨年度の利用者数は、延べ1,267人であり、今年度4月から2月末で、延べ1,678人となっている。現在、9から13名と利用人数の幅があり、まだ損益分岐点を越えられていない。周知は徐々に広がりつつあるが、広報戦略を練り直す必要性を感じている。今までは、子どもの主体性を尊重し、自然体験を重視するというコンセプトのみを打ち出してきたが、保護者にとって深い悩みとなる「不登校」というキーワードも交えながら発信していく方針である。

・スコレー中学部設立について



来年から、中学生の利用も増えるため、中学部設立が課題である。中学部では一人の人間として、社会に出るための準備期間でもあり、スコレーの理念である「人生を自分でデザインする」ことができるように必要な知識や技術、心構えを身につけられる環境を用意していきたい。

中学部スタッフの雇用のため資金調達も必要である。令和6年3月下旬にクラウドファンディングを公開し、4月30日まで支援を募集していく。

・公立小学校との連携について

竹林のスコレーを利用中の児童が、岡山市の小学校2校から出席扱いの認定を受けることができ、学校との連携が進んでいる。倉敷市ではまだフリースクールへの登校が、在籍している小学校の出席

扱いはなくなった事例はなく、今後の話し合いが望まれる。令和6年9月に倉敷市教育委員会から倉敷市でもフリースクールの設立が増えつつあり、フリースクール合同入所説明会などをきっかけに、協働して教育委員会との対話を重ねていく予定である。

・自然の中で遊び学べる子どもの楽園 スコレーパークの建設

竹灯籠まつり会場として 約4,040m²の耕作放棄地を開拓



今後、さまざまな果樹を植えていく予定です

竹林のスコレー西側にある耕作放棄地3区画を1区画購入、新しく2区画貸借でき、全体で約3,500m²の土地を使えることになった。

令和5年3月末から開始し、令和6年4月に終了したクラウドファンディングで、332名の方から533万円のご支援をいただき、開拓する資金を調達、およそ4,000m²を開拓し、スコレーパークの整地が完了した。また、備中県民局のみらいづくり支援事業の助成を受けて、竹灯籠祭りの会場とするため、竹林の間伐、雑木の伐採、整地を行っていった。

スコレーパークを建設するにあたって、就労支援移行作業所であるNPO法人彩に依頼をし、協力しながら開拓を進めた。そして、耕作放棄地など荒れた自然に人の手を入れて快適な自然に戻す取り組みである「大地の再生講座」を合計5回実施。延べ137人のボランティアが参加し、スコレーパークの整地、竹藪の間伐が行えた。



スコレーパークは現在、子どもたちが遊べる広場、竹のジャングルジム、みんなの前で一芸を披露できる竹の舞台、人工芝のバスケットコートができた。スコレーを利用する子どもたちも使用し活動の幅が広がっている。今後は、果樹を植え、花壇や池・ビオトープをつくり、虫が生息できる環境づくりを目指していく。

・スコレーパーク 森の舞台建設と完成披露会

令和6年度、福武教育文化振興財団の教育文化活動助成を受けて、スコレーパークの森の舞台を建設し、大道芸や野外劇を観覧し、子どもたちを対象にしたワークショップを企画。

耕作放棄地を開拓、放置竹林の間伐を行うことで景観を取り戻しつつ、伐採した竹を資材とし舞台を建設。そのステージの完成披露会、こけら落としとして、演劇の一般参加も募集しつつ、参加型演劇を行う団体あったかファミリー、大道芸教室を主催する団体ASOBIBAを招いて、地域住民を対象にワークショップを行った。



子ども33人、大人34人、スタッフ7人、出演者13人、出店者2人、合計89人の来場者を得ることができた。子どもたちは、ワークショップでジェスチャー当てクイズを楽しんだり、ジャグリングやリフティングの技を夢中になって練習していた。

倉敷の大道芸や野外劇の練習場として活用する予定であったが、屋根がないことがネックであり、また広報活動も行えていないのが課題である。今後 周囲の景観の手入れを行い、果樹や山羊や羊などの飼育が行えれば、観光資源の1つになり得る。自然の中で多世代が交流できるファームガーデンの魅力をアピールし発信していく。

・スコレー保育部 たまたま園 親子サロンたまろん



お野菜プレゼントやスコレーイベント利用者から、未就学児が過ごす場所としてもスコレーが使用できるのでは、という声やニーズもあり、令和6年9月から、「たまたま園、親子サロンたまろん」を週1でプレオープン、11月から試験的にスコレー保育部として運営している。

9月から2月までの6ヶ月間で子ども66名、大人68名の利用があった。スタッフ述べ24名。スコレーは、鶏の飼育や車通りのない山道、スコレーパークもできて、未就学児の活動場所としても適しているため、保育部の周知も拡げていきたい。

・スコレー古民家、スコレーパークを活用した収益ポイントの設置

今年度、橋本財団から福祉活動助成を受けて、スコレー利用中の児童や青少年の活動場所を増設するため古民家裏手の離れの改修を実施した。離れも子どもたちの活動場所として利用できるようになった。現在は、スコレー保育部の活動場所として定期的に使用している。

また、スコレーを開校していない土日は、イベントスペースとしても古民家やスコレーパークを活用できるため当法人の理念を共有している店舗を招いて、親子連れで食事を楽しめる出店イベントの計画、場所貸しをするなど、収益ポイントを増やしていきたい。試験的にスコレースタッフによるイベント利用を4回実施した。

(ii) 矢掛町委託事業 子育て支援イベントの実施



矢掛町からの委託事業として、子育て世代向けの親子交流イベント「こども未来学校 in 矢掛

(場所：矢掛町はなしの里)」を企画・運営した。竹を使ったワークショップを、春・夏・秋・冬の季節ごとにテーマを変えて全4回開催。参加総数は、41家族（子供77名・大人57名）、スタッフのべ41名。子供の自然体験と親子交流の機会を提供できた。法人としては、市町村からの委託事業という経験と実績を積むことができた。

④ 食と体、自然と人のつながりを理解し健康な社会の実現を目的とする教育事業

本年度は、他事業の優先順位が高く、未実施となった。

⑤ その他目的を達成するために必要な事業



(i) 倉敷穂井田竹灯籠まつり

竹灯籠まつりは、備中県民局みらいづくり支援事業の助成を受けて、放置された竹林の間伐、景観美化、地域活性化を目的に竹灯籠まつりを開催している。竹灯籠として使用した竹材のほとんどは、使用後竹炭として農業資材として転用し、土に戻せる。苦、我慢ではなく楽しみ、歓びのある持続可能な循環社会のモデルとなり得る。

その祭りに向けて竹灯籠ワークショップを定期的で開催、竹林の整備や間伐、竹細工などに興味関心を持つ人を集め、協力者を募集した。竹灯籠づくりワークショップでは、累計子ども77名、大人17名の参加があり、制作に集中し、子どもたちの充実した表情が見られた。

本年度も継続して採択され160万円の助成を受けて11月に開催。前回は2日間で1,000名を超える来場者を得たが、今回は、単日開催でスタッフやボランティア、出店者、警備にあたった地域の消防団などあわせて1,251名の来場者を得ることができた。

今回、普段車椅子やバギーなどで生活している医療ケア児も参加してもらうことができた。つながりのある福祉施設より、医療ケア児のご家族が、夜間の外出もなかなかできずお祭りなどの行事に参加したことがないという話も聞き、その受け入れをできるように企画。

竹灯籠を展示している山道は、傾斜がきつく舗装されていない場所も通るため車椅子やバギーの利用は難しい。そのため、竹で駕籠を制作し、医療ケア児は駕籠に乗りボランティアの学生さんが駕籠を担いで順路を回ることができた。

屋台で買った食べ物をミキサー食にして家族と一緒に食べられたのも大変喜ばれていた。きっかけとなった福祉施設の代表からは、「例のない取り組みであり医療ケア児の福祉業界に革命が起きたぐらいの衝撃」、と言われていた。障害のある人やその家族も祭りなどの行事に参加できるように今後も継続していきたいと考えている。

また、マルシェと大道芸のショーを取り入れ来場者の評判も良く子どもたちは最後のシャボン玉ショーで大いに盛り上がっていた。来場者が予想以上に多かったこと、警備を依頼していた警備会社スタッフの不備もあり駐車場が予想以上に混雑し、渋滞を引き起こし近隣の方にご迷惑をかけてしまったことが反省される。

事業に後援いただいた地域のまちづくり協議会の会長から、穂井田の関係人口を増やしていることへのお礼や、次回開催するときは小学校の駐車場も使わせてもらうようにしよう、とご提案を頂いた。来年度は、竹灯籠まつりの助成もなくなるため、継続に向けて初夏にクラウドファンディングを利用した資金調達も検討している。

(2) その他の事業

- ① 物品製造・販売事業
未実施。

1. 事業の実施に関する事項

事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
1. 妊娠、子育て中の孤立を防ぎ、健康を増進するために行う妊産婦・乳幼児への無農薬・無化学肥料作物の提供事業	妊産婦へ農薬・化学肥料不使用作物を栽培、収穫し提供する。もしくは理念や栽培方法を共有する農家より仕入れた作物を提供する。	野菜提供：登録妊婦さんへ産後4回まで2週間に一度の頻度で随時提供する	野菜提供：倉敷市とその周辺地域	野菜提供：スタッフ3名（のべ100名）、Voのべ50名	13名の妊婦さんに、述べ57回提供。	612
2. 環境負荷の少ない持続可能な農業の推進、および、安心安全な食品の流通支援事業	お米の生産販売	5月から栽培開始。3月から翌年度の生産準備	玉島陶2970周辺、真備町箭田	スタッフ2名、Vo大人のべ30名、子どものべ45名	利用児童20名（延べ1,678人）（2月末時点）	119
	貸し農園の運営、竹林のスコレー周囲の畑を個人や法人に貸し出す。	6月から募集を開始する。	玉島陶2970周辺	スタッフ2名、Vo大人のべ100名、子どものべ20名	個人2組が利用	16
	さとっこ安心マークによる流通支援	8月から募集開始する。	場所は限定されない	スタッフ2名	未実施	0
	スコレーでの出店者募集	四半期に一度程度	玉島陶2970	スタッフ2名（のべ8名）	2店舗（4回利用）	1
3. 子育て中の父母が朗らかに交流でき、子どもが自然の中で遊び学べる場づくり事業	竹林のスコレー、自然の中で生きる力を育むをモットーとしたオルタナティブスクール事業	平日開校、土日祝にイベントもあり。	倉敷市玉島陶2970	スタッフ5名（延べ500名）、サポートスタッフ8名（のべ425名）、Vo2名（185名）	利用児童20名（延べ1,678人）（2月末時点）	14,453
	スコレー保育部、たまたま園、親子サロンタマロン	9月、10月毎週火曜日プレオープン、11月から毎週火曜日に開催	倉敷市玉島陶2970	スタッフ延べ24人	利用者延べ人数大人68人、子ども66人	24

	Aso-vivaプロジェクト森のステージ建設、完成披露イベント	10月上旬	倉敷市玉島陶2970	スタッフ5名、出店者2名、外部講師3名	スコレーパーク、ステージ建設ボランティア延べ137人、完成披露イベント89人	379
	矢掛町委託、子育て支援イベントの実施	6/1、7/20、9/21、12/21	矢掛町はなしの里	スタッフ延べ41名	41家族(子ども77人、大人51人)延べ128人)	601
5. その他目的達成に必要な事業	倉敷穂井田竹灯籠まつり、荒れた竹林を間伐し、竹害を予防、伐採した竹を資材として祭りを開催し地域活性化、魅力の向上を行う	11月9日(土)	倉敷市玉島陶2970周辺	スタッフ7人、Vo62人、まちづくり協議会10人、玉島消防団穂井田分団21人、出店者50人(全て述べ人数)	来場者1251人(大850人、子ども400人)	2,967
	竹灯籠づくり、竹炭づくりワークショップ	6/15、7/27、8/27、10/19、12/9	倉敷市玉島陶2970、玉島朝市など	スタッフ延べ15人、Vo延べ7人の参加	延べ59名の参加者(大人19人、子ども40人)	

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. 物品製造、販売事業	予定なし	—	—	—	—	0
2. 加工食品の製造、販売事業	予定なし	—	—	—	—	0
3. 上記事業に関わる教育コンテンツの制作	予定なし	—	—	—	—	0